

# 「情報処理学会論文誌 プログラミング」の編集について

論文誌プログラミング編集委員会

## 1. 対象分野

プログラミングはコンピュータの誕生と同時に生まれた伝統的な研究分野であると同時に、コンピュータがある限り不可欠であり続ける技術である。並列分散処理やマルチメディア応用など処理内容が高度になるにつれて、プログラミングの重要性は増すことがあっても減ることはないであろう。

「情報処理学会論文誌 プログラミング」は、プログラミングに関するテーマ全般を専門に扱う論文誌である。具体的には、主に以下のテーマを対象とする。

- プログラミング言語の設計, 処理系の実装
- プログラミングの理論, 基本概念
- プログラミング環境, 支援システム
- プログラミング方法論, パラダイム

これらを応用したシステムの開発事例も対象に含まれる。上記以外でも、プログラミングに関する面白い話題であれば対象となる。

## 2. 編集方針

本論文誌は、プログラミング研究会における発表と論文誌投稿が密接にリンクされている点に特徴がある。研究会発表をせずに論文誌への投稿のみをすることはできない。投稿者が用意する研究会発表用の資料が、内容的にそのまま本論文誌への投稿論文となる。逆に、本論文誌への投稿をともなわない研究会発表は可能である。そのような発表や、あるいは投稿論文が不採録となった発表については、アブストラクトが本論文誌に掲載される。

本論文誌に掲載する論文には、通常のオリジナル論文とサーベイ論文の2種類がある。論文の種類は投稿時に著者自身が指定する。論文の記述言語は日本語または英語のいずれかとする。論文の長さには制限は設けない。

## 3. 査読基準

基本的に、減点法に陥ることを避け、論文の良い点を積極的に評価する方針を貫く。具体的には、新規性や有効性などの評価項目のうち、どれか1つの点で特に優れていると認められるならば採録する。体裁のみが整った論文より、若干の不備はあるものの技術的な貢献の大きい論文を

積極的に受け入れる。

このような観点から、たとえば次にあげるような、従来は論文としてまとめることが難しかった内容の論文も、本論文誌は可能な限り受け入れる。

- プログラミング言語の設計論
- システムの開発経験に関する報告
- 斬新なアイデアの提案
- 概念の整理, 分類法, 尺度の提案
- 複数のシステムその他の比較

## 4. 投稿から掲載までの流れ

本論文誌への投稿希望者および研究会での発表希望者は、発表会開催日の約2カ月前までに発表申し込みをする。具体的な申し込み方法は研究会のWebサイト (<http://sigpro.ipsj.or.jp/>) を参照されたい。申し込みの際には、所定の申し込みフォームに、本論文誌への投稿の有無、オリジナル論文とサーベイ論文の種別指定などを明記する。アブストラクト(和英両方、和文は600字程度)も申し込み時に提出する。論文投稿を希望した場合は、研究発表会の約1カ月前までに、別に定めるスタイル基準に従ったカメラレディ形式で論文を提出する。

毎回の研究発表会の直後、編集委員会が開催され、各論文について1名の査読者を決定する。査読報告をもとに、編集委員会は採録、条件付き採録、または不採録のいずれかの判定を行い、発表会開催後3週間程度で発表者に採否通知を行う。照会の手続きはないが、条件付き採録の場合は採録のための条件が示される。また、論文改善のための付帯意見が添付される場合がある。この場合は、3週間以内に改良版を作成する。最終的に採録となった論文が、学会の諸手続きや校正を経て掲載される。採録論文が英語であった場合、2015年1月から始まったJournal of Information Processing (JIP) との連携により、JIPに正本が、本論文誌にそのプレプリントが掲載される。

本論文誌は、電子図書館(情報学広場:情報処理学会電子図書館)上にオンライン出版され、研究会登録者は発行直後から無料で閲覧できる。また、発行後2年経過した論文誌は、無料で閲覧できる。英文論文が掲載されるJIPは、オープンアクセスである。

## 5. 2016年度の活動のまとめ

2016年度は第109～113回の研究発表会を、以下の日程および場所で開催した。

- 6月 9～10日 浜松市福祉交流センター
- 8月 10日 長野県松本文化会館 (SWoPP2016での共同開催。特集テーマ「並列/分散/協調プログラミング言語と処理系」)
- 11月 5～6日 日本アイ・ビー・エム株式会社本社事業所 (東京都中央区)
- 1月 10～12日 沖縄県男女共同参画センター
- 3月 3～4日 東京大学本郷キャンパス

このうち、第110回が他研究会との連続開催であり、残りの4回が単独開催である。SWoPPの回には特集テーマを定めたが、特集テーマと直接は関係しない発表も受け付けるようにした。

研究会論文誌に投稿された論文は、まず研究会でその内容が発表され、発表会の直後に開催される研究会論文誌編集委員会において議論し、査読者を定めて本査読を行った。

研究会では、例年どおり、投稿の有無にかかわらず、1件あたり発表25分、質疑・討論20分の時間を確保し、参加者が研究の内容を十分に理解するとともに、発表者にとっても有益な示唆が得られるように努めた。さらに、第109、111～113回では、例年どおりの発表形態に加え、論文投稿をともなわない短い発表 (発表20分、質疑・討論10分) も募集し、萌芽的な研究などの発表を促進した。

本年度のプログラミング研究会の発表件数は45件であった。2012年度は44件、2013年度は43件、2014年度は42件、2015年度は49件であり、昨年度より若干減少しているがここ数年と同水準であった。また、論文誌への投稿件数は本年度22件であった。2012年度22件、2013年度33件、2014年度18件、2015年度29件であった。また、採択件数は13件であった。これまでは2012年度13件、2013年度19件、2014年度8件、2015年度16件であった。今年度の採択率は約6割となり、ここ数年と同水準である。今後も発表件数・投稿件数を増やすべく努力をしていく所存である。

ここに、大変短い査読期間にもかかわらず論文査読の労をとっていただいた方々の氏名を掲げる。

### 2016年度査読者

|                 |      |       |
|-----------------|------|-------|
| Reynald Affeldt | 荒堀喜貴 | 稲垣達氏  |
| 上野雄大            | 馬谷誠二 | 江本健斗  |
| 小川瑞史            | 兼宗 進 | 小出 洋  |
| 小宮常康            | 佐藤亮介 | 新屋良磨  |
| 滝本宗宏            | 田辺良則 | 千代英一郎 |
| 中田秀基            | 前田敦司 | 前田俊行  |
| 松崎公紀            | 南出靖彦 | 森口草介  |

横山大作 脇田 建

## 本号の編集にあたって

2016年度第5回研究発表会  
担当編集委員 上野雄大, 松田一孝

本号は、2016年度第5回プログラミング研究会 (通算第113回) からの採録論文2件からなる。

第5回プログラミング研究会は、2016年3月3～4日に東京都文京区の東京大学本郷キャンパスで開催された。この回はテーマを特に設けず、幅広く論文を募集した。研究会論文誌への投稿をともなう発表のほか、論文投稿をともなわない発表を歓迎したことも、これまでと同様である。さらに、この回では通常の発表 (発表25分、質疑20分) に加え、短い発表 (発表20分、質疑10分) も募集した。その結果、通常発表9件、短い発表3件、合計12件の発表が行われた。

投稿原稿の査読を議論する編集委員会会合は、開催日の昼休みや研究会終了後に、編集委員ならびに編集委員会が出席を依頼したメンバで現地にて複数回開催した。ただし、投稿論文の著者と利害関係のある出席者は、その論文についての議論の間は退席した。委員会会合では、先の節に記した対象分野、編集方針、および査読基準に従って、各投稿論文の評価できる点について意見が交され、その場で可能な限り査読者の選定を行った。各査読者は、編集委員会での議論をふまえて査読を行った。

最終的に、本研究会で論文誌への投稿を希望した論文のうち2件が、通常論文として採録となった。他の発表については1ページの概要を掲載している。掲載順序は論文、概要のそれぞれについて当日の発表順に従っている。

本号でも、英語による研究公開を促進することを目的として、日本語採録論文を英語化する試みを実施された。これは、採録論文著者の希望に基づいて、著者が採録された論文を英語化するものである。採録時の内容を変えないように英語化することと、英文校正を通すことが、英語化論文採録の条件となる。採録時と英語化後で論文の内容に差異がないことは、英語化担当編集委員によって確認された後、編集委員会によって承認される。本号では1件の英語論文と1件の日本語論文が採録され、1件の英語化の希望があった。

最後に、研究会開催および論文誌編集にさまざまなご協力を賜った皆様に深い感謝を捧げたい。